

取扱説明書

業務用油だき可搬形ヒータ・熱風式直火形
オリオンジェットヒーターHP

HPS830A1



- この機械は物の加温、乾燥を目的とした「業務用」ヒーターです。
- 家庭用として使わないでください。
- 火力が強いため、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- この取扱説明書をよく読んでヒーターを正しくお使いください。
- 取扱説明書は必ず保管しておいてください。



ガソリン厳禁



巻末が保証書となっています。
大切に保管してください。

03114735010

はじめにお読みください

このたびは、オリオン製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

より安全に、また良好な状態でお使いいただくために、この「取扱説明書」をお読みにになり、正しくお使いください。

安全上のご注意

ご使用の前に「安全のために必ずお守りください」をよくお読みの上、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、 危険  警告  注意に区分して表示してあります。



危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定されるもの



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う可能性、または火災の可能性が想定されるもの



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や、物的損害の発生が想定されるもの

また、 注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。

いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- ・取扱説明書をお読みにになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
- ・お使いになっている製品を譲渡されたり、貸与されるときには、新しく使用者となられる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書を製品本体の目立つところに添付してください。

■図記号について

	 記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合はやけど注意）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は改造禁止）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、警告・注意以外の重要な事項を示します。
	 記号は、詳細・関連情報の参照先を示します。

■機構および仕様等は予告なく変更する場合があります。その際には、本書の内容と一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

も く じ

安全のために必ずお守りください	3
本体警告ラベル貼付位置	9
各部のなまえ	10
使用前の準備と確認	11
使い方	13
点検・手入れのしかた	16
定期点検	20
異常のとき	21
保管のしかた	23
消耗部品	24
廃棄について	24
アクセサリ（別売品）	25
アフターサービス	25
仕様	26
点検・修理依頼シート	27
点検・修理依頼シート記入例	28

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（危険）

この章に記載する事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための安全上の重要事項です。
この製品を使用する前にお読みになり、必ずお守りください。

危険

	ガソリン厳禁 灯油（JIS1 号）を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
	可燃性ガスおよび引火性液体厳禁 可燃性ガスを発生するもの（シンナー、ガソリン、LPG など）を使用しているところや置いてあるところでは、ヒーターを絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
	換気必要 使用中は1 時間に1~2 回必ず換気してください。換気せずに使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります。 密閉された空間での使用厳禁 新鮮な空気が常に供給できるように、空気取入口や排気口を必ず設けてください。換気が十分行われない場所で使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります。
	改造厳禁 改造は絶対にしないでください。製品故障の原因になるばかりでなく、火災・やけど・不完全燃焼による中毒など、重大な事故の原因になります。

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（警告）



警告



変質灯油、不純灯油使用厳禁

変質灯油や不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

スプレー缶厳禁

スプレー缶など密閉容器を暖めたり、熱風の当たるところに放置しないでください。熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発の原因になります。

可燃性粉塵厳禁

可燃性粉塵（木くず、紙くず、繊維くず、鉄粉など）が発生するところでは使用しないでください。ヒーターに吸い込まれると、加熱され火の粉になって噴き出され火災の原因になります。

水のかかるところ、湿気の多いところでの使用禁止

本製品は屋内仕様です。雨水、雪などのかかるところおよび湿気の多いところでは使用しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。故障や感電、火災の原因になります。

ダクト直接接続厳禁

熱風吹出口に直接ダクトを接続しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

空気取入口および熱風吹出口をふさがない

空気取入口や熱風吹出口をふさがないでください。また、周囲のシート等が空気取入口に貼り付かないように注意してください。異常燃焼や火災の原因になります。

電源コードを破損させたり加工しない

電源コードに重いものを載せたり、加熱したり、引っばったり、はさみ込んだり又は加工しないでください。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

車両への据え付け、積載したままでの使用禁止

車両への据え付けや積載したままで使用しないでください。故障や火災の原因になります。



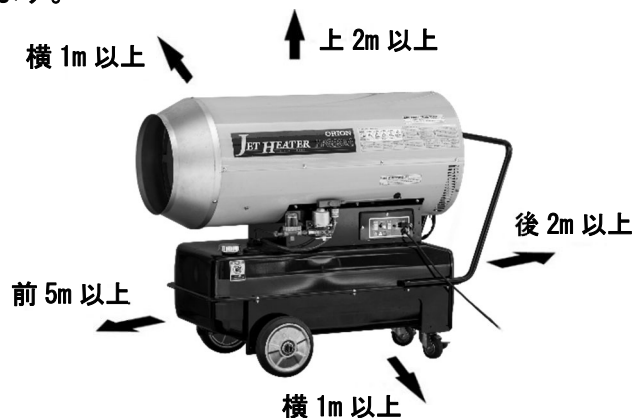
回転物に注意

運転中、内部の送風ファン、燃焼ファンは高速で回転しています。外筒カバー、保護網を絶対に開けないでください。送風ファン、燃焼ファンに触れるとケガの原因になります。



周囲の可燃物に注意

ヒーター周囲の天井、壁面等の可燃物との距離は、下図の距離を確保してください。火災の原因になります。



安全のために必ずお守りください

使用上の注意（警告）



	正常燃焼の確認 使用するたびに正常に燃焼していることを確認してください。（▶16 ページ「点検・手入れのしかた」参照）炎の飛び出し、におい、すすの発生など異常を確認したときは、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。異常のまま使用を継続すると、ヒーター本体の焼損や火災の原因になります。
	点検、手入れ時、電源プラグを抜く 点検、手入れ時およびアクセサリー（別売品）の取り付けの際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファン、燃焼ファンによるケガの原因になります。また、空気取入口の保護網が変形、破損した場合は使用をやめ、お買い上げの販売店にご相談ください。

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（注意）



注意



振動の激しいところや水平でないところでの使用禁止

振動がなく水平な場所で使用してください。振動が激しい場所や水平でない場所で使用すると、ヒーターが移動したり転倒したりして、火災の原因になります。

通路や子供のいる場所での使用に注意

階段、避難口および部屋の出入口などでは使用しないでください。人がぶつかり、やけどなどの事故の原因になります。また、子供のいる場所では、ガードを設置したり管理者をおくなどして、特に安全管理に注意してください。

風に注意

風の強い場所では使用しないでください。可燃物が熱風吹出口付近に飛来すると、火災の原因になります。また、飛来物が空気取入口に貼り付くと、異常燃焼の原因になります。

磁気や高周波に注意

磁気や高周波の強い場所では使用しないでください。予期せぬ製品の誤動作等により火災等のおそれがあります。

腐食性ガスに注意

腐食性ガスの発生するところでは使用しないでください。製品の故障や漏電による、感電、火災の原因になります。

使用例	代表的な腐食性物質
塗装・メッキ工場	塩酸・硫酸・フッ酸・リン酸・クロム酸・ベンゼン・トルエン・キシレン
プール	塩素
畜産	アンモニア・次亜塩素酸ナトリウム・塩酸・赤リン

点火操作の繰り返し禁止

燃料切れ以外で点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないで、お買い上げの販売店にご相談ください。点火操作を 4 回以上繰り返して点火したときには、熱風吹出口より炎や煙が出ることがあります。また、火災の原因になります。

電源プラグでの消火禁止

電源プラグをコンセントから抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、火災、やけど、焼損の原因になります。

運転中の移動禁止

運転中は移動しないでください。やけどのおそれがあります。転倒すると火災の原因になります。

灯油を入れたまま保管、廃棄しない

保管および廃棄するときは、必ず油タンクを空にしてください。温度変化で空気が結露して油タンク内に水がたまり、油タンク底に錆が発生します。油タンクの腐食による穴あきで、油タンク内の灯油が漏れて環境汚染や火災の原因になります。また、長期間保管した灯油は変質し、それを使用すると不完全燃焼の原因になります。

点火操作後の熱風吹出口接近禁止

点火操作後、熱風吹出口をのぞき込まないでください。やけどのおそれがあります。

標高の高いところでの使用禁止

標高 1000m 以下で使用してください。1000m を超える場所で使用すると、燃焼空気量不足により異常燃焼の原因になります。

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（注意）



注意



やけどに注意

燃焼中や消火直後は、外筒コーンなどは高温になっています。燃焼中および消火後 30 分間は手を触れないでください。**やけどのおそれがあります。**



電源に注意

電源電圧は AC100±10V の範囲内で使用してください。AC200V 電源には絶対に接続しないでください。制御基板が故障します。また、タコ足配線はしないでください。**故障や感電、火災の原因になります。**

動物飼育施設での使用に注意

下記内容が想定されますので、特に注意して使用してください。

- ・ 敷きワラ、オガ粉等の可燃物は火災のおそれがありますので、特に注意してください。
- ・ 換気が不十分になると**酸欠や一酸化炭素中毒により家畜が死亡するおそれがあります**ので、使用中は 1 時間に 1～2 回換気をしてください。
- ・ 安全装置の作動などによりヒーターが自動消火し**家畜が凍死**する場合も想定されますので、使用中は定期的に運転状態を確認してください。
- ・ 家畜がヒーターを倒したり壊す等して、**火災の原因**になったり、家畜が長時間温風にあたり**低温やけどや脱水症状**になるおそれがありますので、家畜がヒーターに近づきすぎないように、柵などの施設を設置してください。

周囲温度に注意

周囲温度は-20～40℃の範囲で使用してください。40℃を超える温度で使用するとヒーターが過熱して、**火災の原因**になります。

給油時消火

給油時は必ず消火し、ヒーターが十分に冷えてから行ってください。高温のとき（送風ファンが自動停止する前）に給油すると**火災・やけどの原因**になります。

運転スイッチの切り忘れに注意

サーモスタット、タイマを取り付けて運転すると、自動的に点火・消火を繰り返します。（サーモスタット、タイマはアクセサリ（別売品））ヒーターを使用しないときは、必ず運転スイッチを「切」にして電源プラグをコンセントから抜いてください。**火災の原因**になります。

サーモスタット感温部設置場所に注意

サーモスタットを取り付けた場合、サーモスタットの温度感知部は温風が直接当たる所に置かないでください。頻繁に ON（燃焼）／OFF（消火）を繰り返し、故障の原因になります。

自動車運搬時に注意

自動車に積載して運搬するときは、灯油を抜き、転倒防止の処置を行ってください。転倒や振動により油タンク内の灯油が漏れると**火災の原因**になります。

点検時保護手袋着用

ヒーターの清掃や炎検出器の点検の際は、**ケガの防止のため**、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（注意）



注意

	燃焼状態は離れて確認する 燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒーターから 3m 以上離れて行ってください。 電源コードは先端のプラグを持って抜く コードを持って抜くと、芯線の一部が断線して、発熱・発火などの原因になります。 消火の確認 消火をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。火がついたままだと、火災の原因になります。 持ち上げ移動する場合は二人作業で行う ヒーターを持ち上げて移動する場合は、灯油を抜き、油タンク、把手を持ち、二人以上で行ってください。一人作業で行うとケガの原因になります。 延長コードは許容電流を確認し、正しく使用する 延長コードを使用する場合は、許容電流を確認してください。（☞15 ページ「延長コードを使用する場合」参照）また、巻いたまま、束ねたまま使用しないでください。発火・発熱などの原因になります。
	使用時以外は電源プラグを抜く 使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。
	アースは必ず接地する ヒーターを使用するときはアースコードを必ず接地してください。（☞13 ページ「点火のしかた」参照）感電の原因になります。

本体警告ラベル貼付位置

使用上の注意（本体警告ラベル貼付位置）

⚠ 本体警告ラベル貼付位置

次の警告ラベルは、警告事項の中から特に重要なものとして厳選されておりヒーター本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みください。また、汚れ、傷などで見えにくくなった場合には、お買い上げの販売店に連絡し、新しいものに貼り替えてください。（有償扱いとなります。）

安全のため正しくお使いください

危険

ガソリン厳禁
必ず灯油（JIS1号灯油）を使用

警告

日常の点検・手入れは
電源プラグをコンセントから
抜いてから行ってください

警告

空気取入口、
熱風出口を
ふさぐな

警告

ケガの恐れあり
保護アームをはずして
運転するな

注意

やけどの恐れあり
手などを触れるな

高温注意

周囲温度40℃
以下で使用する

安全のため必ずお守りください

危険

- ガソリン使用。必ず灯油を使用すること。燃焼、火災の原因になります。
- 可燃性ガスの発生する場所での使用厳禁。燃焼、火災の原因になります。
- 洗濯機での使用厳禁（燃焼必須）。燃焼が不十分だと一酸化炭素中毒による死に至ります。

警告

- 定額灯油。必ず灯油を使用すること。燃焼、火災の原因になります。
- スプレー缶使用。スプレー缶の圧力が上がり、爆発、火災の原因になります。
- 可燃性ガスの発生する場所での使用厳禁。燃焼、火災の原因になります。
- 可燃性ガスの発生する場所での使用厳禁。燃焼、火災の原因になります。
- 可燃性ガスの発生する場所での使用厳禁。燃焼、火災の原因になります。
- 可燃性ガスの発生する場所での使用厳禁。燃焼、火災の原因になります。

使用方

項目	点検	点検	点検	点検	点検
点火	ヒーターを水平な場所に置く。運転スイッチを「入」にする。（表示ランプが「点」に点灯）	運転スイッチを「切」にする。消火後約3分間は、送風ファンが回転します。	空気抜きスイッチを「入」にする。送風ファンを回す。送風ファンが回ると、運転スイッチを「入」にする。	強制送風スイッチを「入」にする。（表示ランプが「点」に点灯）	強制送風スイッチを「入」にする。（表示ランプが「点」に点灯）

警告表示

表示ランプ「点」	原因	処置方法	表示ランプ「赤」	原因	処置方法
点検	2回 燃料切れ	油を補充してください	点検	7回 太陽光の遮断	太陽光の遮断を解除してください
点検	3回 燃焼不良・燃焼不安定	燃焼不良・燃焼不安定を解消してください	点検	燃焼不良・燃焼不安定	燃焼不良・燃焼不安定を解消してください
点検	4-6回 燃焼が安定しない	燃焼が安定しない場合は、燃焼不良・燃焼不安定を解消してください	点検	燃焼不良・燃焼不安定	燃焼不良・燃焼不安定を解消してください
点検	5回 異常燃焼	異常燃焼を解消してください	点検	異常燃焼	異常燃焼を解消してください



警告 家庭用として使わないでください。

1. この機械は物の加温、乾燥を目的とした「業務用」ヒーターです。

2. 家庭用として使わないでください。

火力が強いので、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

ジェットヒーター HP 用 03103871010

注意 点火操作の繰り返し禁止

燃料切れ以外で、点火操作を3回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないでください。点火操作を4回以上繰り返して点火した時には、熱風出口より炎が出る場合があります。また火災の原因にもなります。

ジェットヒーター HP 用 04104305010

危険

ガソリン厳禁

必ず灯油（JIS1号灯油）を使用

04041002010

警告

日常の点検・手入れは
電源プラグをコンセントから抜く



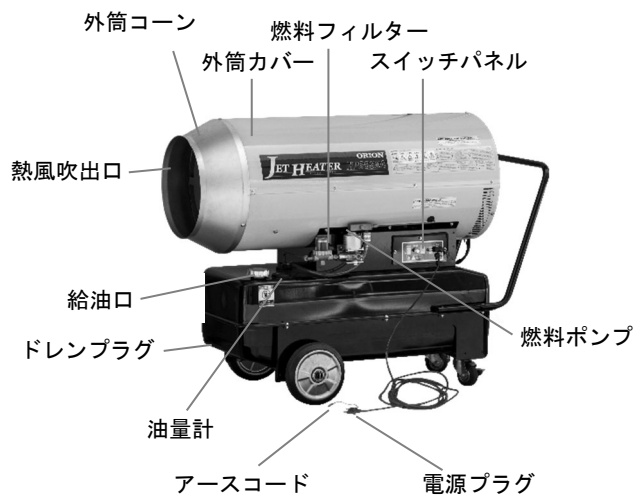
各部のなまえ

外観／スイッチパネル／外筒カバーを開けると

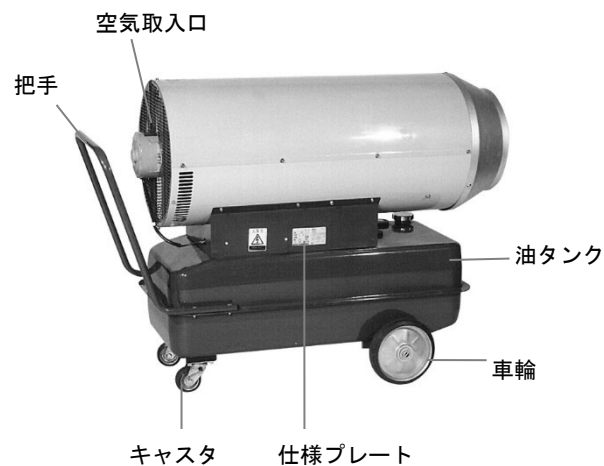
外観

■外観

前面

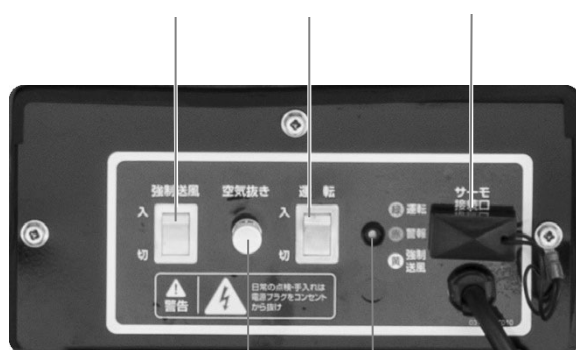


裏面

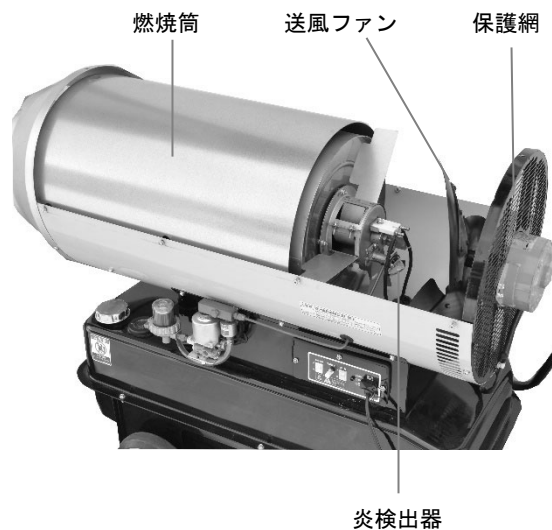


■スイッチパネル

強制送風スイッチ 運転スイッチ 短絡プラグ



■外筒カバーを開けると



使用前の準備と確認

使用する場所／燃料／点火前の準備

使用する場所

「安全のため必ずお守りください」をよくお読みになり、使用する場所には特に注意願います。

燃料

危険

- 灯油（JIS1 号）を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。

警告

- 変質灯油や不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

●使用燃料について

1. 燃料は JIS1 号灯油を使用する。
2. 変質灯油や不純灯油は使用しない。

●変質灯油とは

- ・古い灯油（昨シーズンより持ち越した灯油）
- ・日光の当たる場所で長期間保管したもの
- ・温度の高い場所で長期間保管したもの

●不純灯油とは

- ・灯油以外の油（ガソリン、シンナー、機械油重油など）が混入したもの
- ・水やゴミが混入したもの

●変質灯油、不純灯油が入っているとき

- ・油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油と入れ替えてください。（「油タンクの掃除」 18 ページ参照）

灯油とガソリンの見分けかた

指先につけ、息を吹きかけます。
（火の気のない所で行ってください。）

灯油	ガソリン
	
濡れたまま	すぐ乾いてしまう

点火前の準備

1. 木枠からヒーターを取り出す。
 - ・ヒーター各部の梱包部材やチラシをすべて取り除く。
 - ・使用地域の周波数とヒーター本体の仕様プレートに記載されている周波数が同じことを確認する。
2. 据え付ける。
 - ・水平な場所に置く。
 - ・ヒーターの近くに燃えやすいものが置いてないか確認する。

使用前の準備と確認

給油のしかた

給油のしかた



注意

●給油時は必ず消火し、ヒーターが十分に冷えてから行ってください。高温のとき（送風ファンが自動停止する前）に給油すると火災・やけどの原因になります。

1. 給油口キャップを外す。
2. 油量計の目盛を確認しながら給油する。
 - ・ 給油口フィルターは外さずに給油してください。タンク内にゴミ等が入りますと送油回路の詰まりの原因になります。
 - ・ いきおいよく給油すると給油口から灯油があふれることがあります。給油はゆっくりと行ってください。
 - ・ 油量計の目盛は、「F」を超えて給油しないでください。灯油があふれます。
3. 給油が終わったら給油口キャップを確実に締め付ける。

使い方

点火のしかた

点火のしかた



注意

- 電源電圧は、AC100±10V の範囲で使用してください。AC200V 電源には絶対に接続しないでください。制御基板が故障します。また、タコ足配線はしないでください。故障や感電、火災の原因になります。
- アースコードは必ず接地して使用してください。感電の原因になります。
- 燃料切れ以外で点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないでください。点火操作を 4 回以上繰り返して点火した時には、熱風吹出口より炎や煙が出ることがあります。また、火災の原因になります。お買い上げの販売店にご相談ください。

1. 電源プラグを AC100V コンセントに差し込む。

- ・ 運転ランプが赤色に点灯（停電安全装置作動）した場合は、運転スイッチが「入」になっています。運転スイッチを「切」にした後、点火操作をしてください。
- ・ 表示ランプが赤色に点滅していないことを確認してください。

2. 電源プラグから出ているアースコードを接地してください。

3. 運転スイッチを「入」にする。

4. 約 10 秒後に点火します。

- ・ お買い上げ後初めての運転時や燃料切れした給油後の運転時は、運転スイッチ「入」後燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がして点火安全装置が作動し表示ランプの赤色が 4 回もしくは 6 回点滅、対震自動消火装置が作動して表示ランプの赤色が 6 回点滅します。この場合は、空気抜きのみを参照し、点火してください。（油タンク内の灯油が少量でヒーターを運搬、移動した場合にも、同様な現象となる場合があります。）

重要事項

- 電源電圧が異常に高い場合は、表示ランプが赤色に点滅します。即座に電源プラグをコンセントから抜いてください。警報が出ても、ヒーターには過電圧が印加されたままになっています。
- 燃料切れによる消火時や、燃料切れした給油後の運転時には、熱風吹出口から炎が飛び出したり、油滴が飛び出す場合がありますので、注意してください。炎や油滴の飛び出しを防止するためには、燃料切れをおこす前に給油してください。
- 点火時のにおいや黒煙は、異常ではありません。

使い方

空気抜きのしかた／消火のしかた／強制送風のしかた

空気抜きのしかた

次のようなときは、運転スイッチを「入」にしても燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がして、点火しないことがありますので空気抜きを行ってください。

- ・ お買い上げ後、はじめて運転したとき
- ・ 油タンク内に少量の灯油しか入っていない状態で、運搬、移動したとき
- ・ 油タンクが「空」になり、あらたに灯油を給油したとき
- ・ 配管中に空気が入ったとき

1. 運転スイッチを「入」にする。
2. 約 10 秒後に燃料ポンプが動きだします。「ガチャガチャ」という音がします。
3. 空気抜きスイッチを押す。
透明ホースを流れる灯油中に気泡が無くなったら、空気抜きスイッチを離す。



消火のしかた



- 電源プラグを抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、火災、やけど、焼損の原因になります。
- 燃焼中や消火直後は、外筒コーンなどは高温になっています。燃焼中および消火後 30 分間は手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

1. 運転スイッチを「切」にする。
2. 約 3 分間冷却運転を行った後、自動停止します。

強制送風のしかた

燃焼をさせないで送風のみ必要な場合に使用してください。

強制送風スイッチを「入」にしてください。
表示ランプが黄色に点滅し送風します。



表示ランプ

使い方

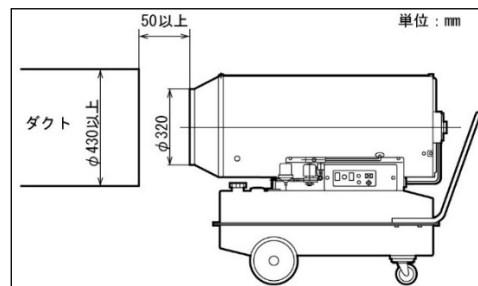
ダクトの使い方／移動のしかた／延長コードを使用する場合

ダクトの使い方

警告

- ダクト径を絞ったり、密着させたりすると不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して危険です。ダクト周囲の2m以内に可燃物を置かないでください。火災の原因になります。

1. ダクトの使用の際は、下記の点に注意してください。
ダクトは、熱風吹出口より必ず50mm以上離して使用してください。ダクト径は、ヒーター径よりも太い不燃性のものを使用してください。



移動のしかた

注意

- 運転中は移動しないでください。やけどのおそれがあります。転倒すると火災の原因になります。

1. 把手を持ち移動してください。
2. 移動したら、写真のように必ずキャスタが動かないようにロックしてください。



ロック

延長コードを使用する場合

注意

延長コードを使用する場合は、許容電流を確認してください。また、巻いたまま、束ねたまま使用しないでください。発火、発熱などの原因になります。

1. 延長コードを使用する場合は、次の表を目安にしてください。

延長コードの長さ	30m	60m	90m	120m
コードの公称断面積	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²

点検・手入れのしかた

使うたびに



警告

- 運転状態の確認、対震自動消火装置の作動確認を除き、点検・手入れは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電や、送風ファンによるケガの原因になります。



注意

- 燃焼中や消火直後は、外筒コーンなどは高温になっています。燃焼中および消火後 30 分間は手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- ケガ防止のため、点検・手入れの際は、軍手などの保護手袋を着用してください。

使うたびに



警告

- 異常が認められた時は、ヒーターの使用をやめ、お買い上げの販売店にご相談ください。異常のまま使用すると、ヒーター本体の焼損や火災などの原因になります。



注意

- 燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒーターから 3m 以上離れて行ってください。

1. 運転前の確認

- ・ ヒーター周囲の可燃物との距離は確保されているか。また、スプレー缶などが無いか必ず確認してください。
- ・ ヒーター本体や、油タンク、ヒーター周囲に油漏れや油漏れの形跡が無いか確認してください。
- ・ 外筒の塗装に変色（焼け）が無いか確認してください。変色があるとヒーター内部に異常があるおそれがあります。

2. 燃焼状態の確認

燃焼中に次の異常が無いか確認してください。

- ・ 臭いがする。
- ・ 熱風吹出口から頻繁に炎が飛び出す。
- ・ 熱風吹出口から時々すすが出る。
- ・ 熱風吹出口から時々油滴が飛び出す。
- ・ 熱風吹出口から油ダレしたり、床に油が垂れたしみがある。
- ・ 炎が大きくなったり、小さくなったりする。または消火・着火を繰り返す。
- ・ 異常音や異常振動する。

重要事項

- 異常燃焼や油ダレがある場合は、電源プラグを抜かないでください。運転スイッチを切り約 3 分間の冷却運転が終わってから電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜いて消火すると、ファンによる冷却運転が出来ないためヒーター内部が高温になり、内部の垂れた灯油に引火し、本機の焼損や火災のおそれがあります。

点検・手入れのしかた

1ヶ月に1回以上

1ヶ月に1回以上

1. 対震自動消火装置の点検

- ・対震自動消火装置が作動することを確認してください。

■対震自動消火装置の作動確認のしかた

- (1) 把手を持ち、ヒーターを水平にゆする。
- (2) 対震自動消火装置が働き、消火することを確認する。

2. フィルターエレメントの点検

- ・フィルターケース内のエレメントを確認し、汚れているときは、フィルターエレメントの掃除をしてください。
- ・汚れが著しいときは、新品のフィルターエレメントと交換してください。(エレメントのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください)

■フィルターエレメントの掃除のしかた

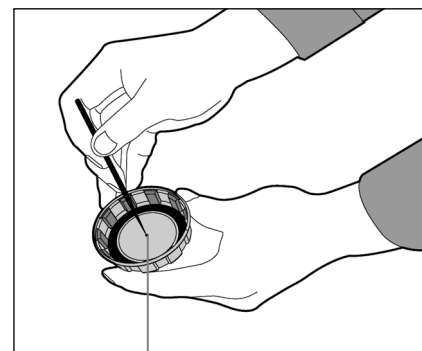
- (1) フィルターケースの固定リングをゆるめフィルターケースを外す。
- (2) フィルターエレメントを外し、灯油で洗う。
- (3) 元通りに組み立てる。
 - ・固定リングは手で確実に締め付けてください。



フィルターエレメント
フィルターケース

3. 給油口キャップ通気穴の点検

- ・給油口キャップを外し、通気穴が詰まっていないか確認してください。
- ・詰まっているときは、針金などでゴミを取り除いてください。



通気穴

点検・手入れのしかた

1 シーズンに 2～3 回

1 シーズンに 2～3 回

1. 油タンクの掃除（水抜き）

- ・ヒーター保管時は必ず油タンクの掃除を行ってください。
- ・また、フィルターケース内に水が溜まっていたり、フィルターエレメントにゴミの付着が多い場合も同様に掃除を行ってください。

■油タンクの掃除（水抜き）のしかた

- (1) 油タンク内の灯油を、給油ポンプで抜く。
- (2) 油タンクのドレンプラグの下に油受けを置く。
- (3) ドレンプラグを外し、残った灯油をゴミや水とともに抜く。
- (4) ドレンパッキンが破損していないことを確認して、ドレンプラグと一緒に確実に締め付ける。

2. 燃焼状態の確認（炎の飛び出し、すすの発生）

- ・粉塵等が多い使用環境によっては送風ファンに汚れが付着し、炎の飛び出し、すすの発生等の不完全燃焼になります。燃焼状態の確認（☞16 ページ参照）を行い、異常の場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

3. 炎検出器の掃除

- ・☞19 ページ「炎検出器の掃除のしかた」を参照し、炎検出器の掃除を行ってください。

4. 電源プラグの点検

- ・電源プラグにほこりが付着していないか確認する。
- ・電源プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除く。



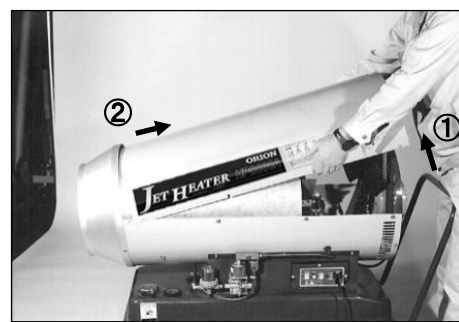
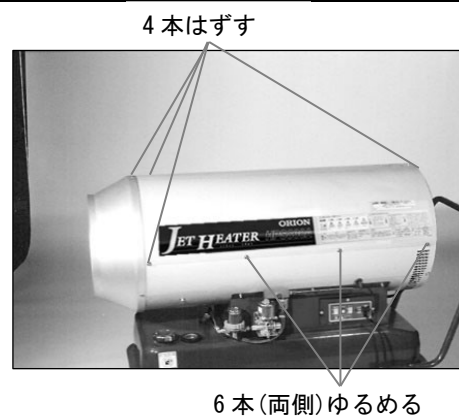
油受け

点検・手入れのしかた

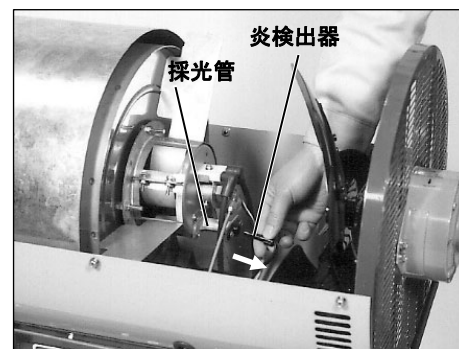
炎検出器の掃除のしかた

炎検出器の掃除のしかた

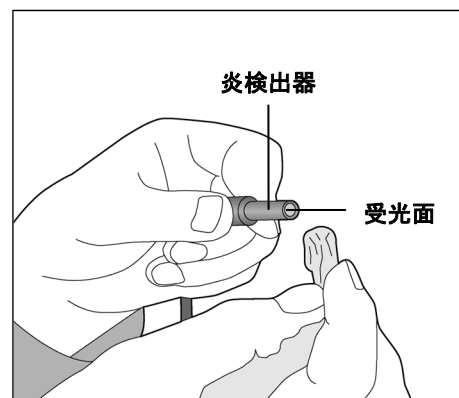
1. 外筒カバーを固定している 10 本のネジのうち、4 本はドライバにて取りはずし、残りの 6 本はゆるめて、写真の手順で外筒カバーをはずす。



2. 炎検出器を採光管より抜く。



3. 炎検出器の受光面のすす、ほこり等を取り除く。柔らかい布又は綿棒等で受光面についているすす、ほこり等を取る。
※炎検出器が入っている採光管先端部の穴が、ほこりでつまっているときは、掃除してください。
4. 炎検出器を元通りに差し込む。この時、炎検出器の凸部と採光管側の凹部を合わせること。
5. 外筒カバーを取り付ける。



定期点検

長時間ご使用になりますと機器の点検が必要です。点検を受けないと、予想しない事故が発生するおそれがあります。未然に事故を防止するため定期点検を依頼してください。（有償となります）

■実施時期

2 シーズンに 1 回程度シーズン初めやシーズン終了時に定期点検を依頼してください。特に、使用時間が長い場合や、ほこりの多いところ、湿度の高いところなどでご使用の場合は、1 シーズン毎の点検が必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ご依頼先

お買い上げの販売店

■定期点検の内容

1. 設置状態の点検・確認
2. 安全装置および運転状態の点検・確認
3. 環境や使用時間により劣化しやすい部品の点検・確認など
4. 製品の清掃・整備

■定期点検費用

定期点検の費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。定期点検の結果、部品交換および修理等が必要な場合は、処理内容および費用についてお客様にご相談申し上げます。

異常のとき

故障・異常早見表



警告

●次の表に従って確認や処置を実施しても改善しない場合や、原因が不明な場合は、ヒーターの使用やめ、お買い上げの販売店にご相談ください。異常のまま使用すると、火災などの原因になります。

故障・異常早見表

現象 原因	ヒーターの状態					表示ランプ（赤色）		
	操作を受け付けない	点火不良・途中消火する	表示ランプの赤色が点滅する	表示ランプの赤色が点灯する	異常な燃焼状態 （炎の連続的な飛び出し、 においがする、黒煙の吹き出しなど）	点滅回数		
						2	3	4
						途中消火	対震自動消火	点火ミス
- 電源プラグがコンセントから抜けている - 電気が来ていない	●							
- 停電があった - 運転スイッチ「入」で電源プラグをコンセントに差し込んだ				●				
- ヒーターが傾いている - 地震や強い衝撃があった - お買い上げ後、初めて使用した - 油タンク内の灯油が少量で運搬、移動した - 油タンクに灯油がない - ヒーター移動直後に運転スイッチを「入」にした - 感震器の故障（断線）		●	●				●	
- バーナーの異常過熱 - 周囲温度が40℃を超えている - 停電でヒーター内部が過熱 - 送風ファンの回転異常 - 空気取入口にシートなどが貼り付いた		●	●					
変質灯油、不純灯油の使用		●	●		●	●		●
- フィルターエレメントの詰まり - 給油口キャップ通気穴の詰まり - 灯油配管の外れ - 電磁ポンプの故障 - ノズルの詰まり		●	●			●		●
油タンクに灯油がない		●	●			●		●
- 換気が不足している - 標高1000mを超えた場所で使用している		●	●		●	●		●
風のあるところで使用している		●	●		●	●		●
電源電圧が高いまたは低い		●	●		●			
- 運転開始前に燃焼室内に炎がある - 炎検出器の故障（短絡） - 燃焼室内に太陽が差し込んでいる		●	●					
- 炎検出器の受光面が汚れている - 炎検出器の故障（断線）		●	●			●		●
過負荷保護装置（ヒューズ）が作動（運転ランプも点灯しない）	●							

異常のとき

故障・異常早見表



警告

- 再点火操作は繰り返し 4 回以上行わないでください。異常のまま使用すると、火災などの原因になります。
- 確認や処置の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファン、燃焼ファンによるケガの原因になります。

点滅回数						点灯	処置の方法
5	6	7	連 続 (0.3秒 点滅)	連 続 (1秒 点滅)			
過熱防止	不着火	疑似火炎	高電圧警報	低電圧注意	停電安全		
							・元電源、電源プラグの差し込みを確認する
					●		・異常がないことを確認して再点火する ・運転スイッチを「切」にし、再度「入」にする
							・水平な場所に移動する ・異常がない事を確認して再点火する ・運転スイッチを「切」にし、点火操作を 2～3 回繰り返す ・運転スイッチを「切」にし、点火操作を 2～3 回繰り返す ・給油する ・約 10 秒待ってから運転スイッチを「入」にする ・販売店に連絡する
●							・販売店に連絡する ・周囲温度 40℃以下で使用する ・ヒーター内部が冷えてから再点火する ・販売店に連絡する ・シートなどを取り除く
	●						・油タンクを掃除し、きれいな灯油を使用する
	●						・フィルターエレメント掃除 ・給油口キャップ通気穴の掃除 ・灯油配管の締め付け ・販売店に連絡する ・販売店に連絡する
	●						・給油する
●	●						・換気を十分に ・標高 1000m 以下で使用する
●	●						・風のある場所で使用しない
			●	●			・電源電圧を確認する ・電源電圧 100V で使用する
		●					・燃焼室内に炎がない事を確認し、販売店に連絡する ・販売店に連絡する ・燃焼室内に太陽光が差し込まないようにヒーターの向きを変える
	●						・炎検出器の受光面を掃除する ・販売店に連絡する
							・販売店に連絡する

異常のとき

安全装置一覧

安全装置一覧表

装置のなまえ	はたらき
対震自動消火装置	強い地震や衝撃を受けたときに自動消火します。
点火安全装置	点火ミス、途中消火、燃料切れ、異常燃焼のときに自動消火します。
停電安全装置	停電後に復電しても、運転開始することを防止します。
過熱防止装置	ヒーター内部が異常過熱したときに自動消火します。
過負荷保護装置（ヒューズ）	過電流が流れた時に電気回路をしゃ断し、運転停止します。 雷による異常な高電圧、大電流から電気回路をしゃ断して制御基板を保護します。
高電圧停止装置	電源電圧が異常に高いときに運転停止し、警報を出します。
低電圧警報装置	電源電圧が異常に低いときに警報を出します。（運転は停止しません）

※安全装置作動時は、「故障・異常早見表」（☞21、22 ページ参照）に従って、確認および処置をしてください。

保管のしかた



注意

●灯油を入れたまま保管しないでください。油タンクの腐食による穴あきで、油タンク内の灯油が漏れて環境汚染や火災の原因になります。また、長期間灯油を保管すると変質し、それを使用すると不完全燃焼の原因にもなります。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. 油タンク内の灯油を抜く。
 - ・「油タンクの掃除のしかた」（☞18 ページ参照）に従って灯油を抜いてください。灯油を抜かないと、溜まった水により油タンクが錆びて穴あきの原因になります。
3. ヒーター本体のほこりや汚れを取り除く。
4. シート等をかけて湿気の少ない屋内で保管する。
 - ・雨水がかかる、あるいは湿気の多いところには保管しないでください。

消耗部品

定期交換部品／点検交換部品

定期交換部品（指定された時期に定期的に交換する部品）

	部品番号	部品名称	員数／台	交換時期※
1	80000004560	フィルタエレメント	1	1 シーズン毎
2	36100111630	ノズル	1	3 シーズン毎

※交換時期は、一般的な使用条件における予防保全（使用中の故障を未然に防止するために計画的に行う部品交換等）としての目安です。

※交換時期は保証期間ではありません。また、製品の使用環境、運転条件等により、交換時期前に交換が必要となる場合があります。

※ノズルの交換は、専門技術を要しますのでお買い上げの販売店にご相談ください。

点検交換部品（点検時の消耗、劣化状態に応じて交換する部品）

	部品番号	部品名称	員数／台	点検時期	交換判定基準
1	03038258010	給油口フィルタ	1	1 シーズン毎	破損の有無
2	03041199010	給油口キャップ （オイルキャップ組立）	1	1 シーズン毎	破損の有無
3	03040820010	点火棒	1	1 シーズン毎	消耗・変形の有無
4	03A30857010	送風ファン（モータ）	1	1 シーズン毎	異音の有無・回転の状態
5	0A001253000	燃料ポンプ（電磁ポンプ）	1	1 シーズン毎	異音の有無・油量の減少

（注意）上記部品（3、4、5）の交換は、専門技術を要しますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

廃棄について

製品を廃棄するときは、油タンク内の灯油を抜いた後、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に準拠し、必ず専門の産業廃棄物処理業者に委託して処理をしてください。

アクセサリ（別売品）

アクセサリ（別売品）は、お買い上げの販売店にご相談ください。

1. アクセサリ（別売品）

	部品番号	部品名称	員数／台	仕様
1	03113301010	サーモスタット（高温用）	1	20℃～110℃
2	03107226010	サーモスタット（低温用）	1	10℃～30℃
3	03107226020	サーモスタット（低温用）	1	0℃～20℃
4	03040081010	サーモスタット（防湿型）	1	5℃～40℃
5	03037841010	タイマ	1	

必ず純正部品を使用してください。使用の際は、部品に付属の取扱説明書をよく読んで使用してください。

2. サーモスタット・タイマの接続のしかた

サーモスタットまたはタイマを接続するときは、部品に付属の取扱説明書をお読みのうえ、次のように接続してください。運転のしかたは、部品に付属の取扱説明書を参照してください。

- (1) スイッチパネルのサーモ接続口に取り付けられている短絡プラグを外す。
- (2) サーモスタットまたはタイマのプラグを、サーモ接続口に差し込む。

重要事項

- サーモ接続口に、その他のプラグを差し込んだり、電圧を印加したりしないでください。故障します。
- サーモスタットを取り付けた場合、サーモスタットの温度感知部は、温風が直接当たる所に置かないでください。頻繁に ON（燃焼）／OFF（消火）を繰り返し、故障の原因になります。

アフターサービス

■保証について

- ・ 巻末が保証書となっています。大切に保管してください。
- ・ 保証期間中でも消耗部品等は有償となる場合があります。保証書をよくお読みください。
- ・ 保証期間経過後は有償修理となります。修理箇所および修理内容や経過年数によっては新規購入をおすすめする場合がありますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

■点検・修理を依頼される前に

- ・ 「異常のとき」（☞ 21、22 ページ参照）に従い確認、処置をしてください。
- ・ その上で改善しない場合、またはご不明な点がある場合は、ご自身で修理なさらずに、お買い上げの販売店にご相談ください。

■補修用性能部品について

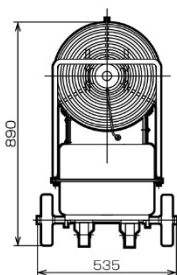
- ・ 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- ・ この製品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 7 年です。

■アフターサービスの依頼

- ・ 点検、修理のお申しつけのときは、巻末の「点検・修理依頼シート」にご記入いただき、販売店にお渡しください。

HPS830A1

種類	熱風式直火形
形式	HPS830A1
熱出力	97.2kW
燃料消費量	10L/h
油タンク容量	80L
燃焼持続時間	8 時間
外形寸法	高さ 890 mm×幅 535 mm×奥行 1230 mm
製品質量（油タンク空時）	60kg
定格電圧および周波数	単相 100V 50/60Hz
定格消費電力（50/60Hz）	点火時 360/470W、燃焼時 325/430W
運転音（50/60Hz）	74/78dB
燃焼方式	高圧噴霧式
安全装置	対震自動消火装置
	点火安全装置
	停電安全装置
	過熱防止装置
	過負荷保護装置
	高電圧停止装置
	低電圧警報装置
ヒューズ	ガラス管ヒューズ（φ5.2×20mm, 125V・10A）



* ご記入日 年 月 日

点検・修理依頼シート

※この用紙をコピーしてお使いください
※ * は必須項目

お客様 情報	* 会社名	フリガナ				
	* 部署名		* お名前	フリガナ		
	* 電話番号		FAX			
	携帯番号		メールアドレス			
	* ご住所	〒 ー 都・道 府・県 郡・区・市 ビル名 棟・階				
購入先 販売店 情報	* 会社名					
	ご担当部署		* ご担当者指名			
	* 電話番号		FAX			
ご依頼 製品情報	*MODEL (型式)			*SERIAL No. (製造番号)		
	*LIST No. (特注番号)			仕様書 No.		
	納入日			* 不具合 発生日	年 月 日	
	* 設置状況	☐ 屋内	☐ 屋外	☐ クリーンルーム	クリーンスーツ借用	可 ・ 否
		☐ 屋根有り	☐ 高所	具体的な場所		
	* ご依頼内容 (不具合情報)	エラー番号 []				
* 希望修理依頼		☐ 出張修理	☐ 引取修理	☐ 持込修理	☐ 送付修理	
		☐ 土日、祭日指定	☐ 時間指定有り	AM・PM	時 分 ~ 時 分	
出張修理 入門条件	* 事前入場書類	☐ 必要	☐ 不要	必要枚数：()枚程度	連絡事項	
	* 講習	☐ 必要	☐ 不要	☐ 事前	☐ 当日	事前講習時間 時間 分
	* 持ち物	ヘルメット・帽子・安全帯・脚絆・安全靴・保護メガネ・耳栓・内履き・クリーンスーツ・防塵マスク 防毒マスク・その他 ()				
	立会者	☐ 有	☐ 無	会社名		氏名
* 工事写真		☐ 必要	☐ 不要	書式指定	☐ 有	☐ 無
* 事前見積り要否		☐ 必要	☐ 不要			

注意事項

- 記載内容が不足している場合は、修理受付不可となる場合がございますのでご了承願います。
- 修理のご依頼はご購入先販売店にご連絡をお願いします。ご連絡時に必ず本紙もお渡しください。
- 修理品をお送りいただく際の送料はお客様ご負担とさせていただきます。
- 点検費はお客様ご負担とさせていただきます。
- 点検後、修理不可となった場合でも点検費はお客様ご負担とさせていただきます。
- メーカー以外の改造が有る場合は修理が出来ない可能性があります。
- お客様にて分解された場合は修理が出来ない可能性があります。
- 販売から長期間経過している製品は修理が出来ない可能性があります。



Excel シート Word シート

<https://www.orionkikai.co.jp/contact/repair/>

点検・修理依頼シート記入例

仕様プレート（ジェットヒーターなど）

PS		04043974010	
定格電圧	100V	形 式	HRS330
定格周波数	50/60 Hz		
定格消費電力		燃料消費量	4.0 L/h
点火時	69/71W	使用燃料	灯油（JIS1号灯油）
燃焼時	95/115W	油タンク容量	40 L
オリオン機械株式会社		製造番号	

仕様プレートはキャビネットに貼り付けてあります。
正確に記入をお願いします

修理実施にあたって
お客様にご確認のため
お電話で連絡させて
いただく事があります。
確実に連絡のつく番号を
ご記入ください

点検・修理依頼シート

※この用紙をコピーしてお使いください
※*は必須項目

お客様 情報	* 会社名	フリガナ ○○○○カブシキガイシャ			
		○○○○株式会社			
	* 部署名	設備課	* お名前	フリガナ ナガノ タロウ 長野 太郎	
	* 電話番号	03-1234-XXXX	FAX	03-1234-△△△△	
購入先 販売店 情報	携帯番号	090-1234-XXXX	メールアドレス		
	* ご住所	〒382-0000 長野 都・道 須坂 郡・区・市 幸高〇-〇-〇			
	* 会社名	株式会社○○○○			
	* 担当部署		* ご担当者名	東京 太郎	
ご依頼 製品情報	* 電話番号	03-1234-XXXX	FAX	03-1234-△△△△	
	* MODEL (型式)		* SERIAL No. (製造番号)		
	* LIST No. (特注番号)		仕様書 No.		
	納入日	20××年 ××月 ××日	* 不具合 発生日	20××年 ××月 ××日	
	* 設置状況	☐ 屋内 ☒ 屋外 ☐ クリーンルーム クリーンスーツ着用 可 ・ 否 ☐ 屋根有り ☒ 高所 具体的な場所 3階建ての屋上に設置			
	* ご依頼内容 (不具合情報)	エラー番号 [E△△△] エラー番号 E△△△が発生し停止。リセットを行い運転させるも数分で再発。			
	* 希望修理依頼	☒ 出張修理 ☐ 引取修理 ☐ 持込修理 ☐ 送付修理 ☐ 土日、祭日指定 ☒ 時間指定有り AM・PM 5時00分～ 時 分			
	出張修理 入門条件	* 事前入場書類	☐ 必要 ☒ 不要 必要枚数：()枚程度 連絡事項		
		* 講習	☐ 必要 ☒ 不要 ☐ 事前 ☐ 当日 事前講習時間 時間 分		
		* 持ち物	ヘルメット・帽子・安全帯・脚絆・安全靴・保護メガネ・耳栓・内履き・クリーンスーツ・防塵マスク 防毒マスク・その他 ()		
	立会者	☐ 有 ☒ 無	会社名	氏名	
	* 工事写真	☐ 必要 ☒ 不要	書式指定	☐ 有 ☐ 無	
	* 事前見積り要否	☒ 必要 ☐ 不要			

注意事項

- 記載内容が不足している場合は、修理受付不可となる場合がございますのでご了承願います。
- 修理のご依頼はご購入先販売店にご連絡をお願いします。ご連絡時に必ず本紙もお渡しください。
- 修理品をお送りいただく際の送料はお客様ご負担とさせていただきます。
- 点検費はお客様ご負担とさせていただきます。
- 点検後、修理不可となった場合でも点検費はお客様ご負担とさせていただきます。
- メーカー以外の改造が有る場合は修理が出来ない可能性があります。
- お客様にて分解された場合は修理が出来ない可能性があります。
- 販売から長期間経過している製品は修理が出来ない可能性があります。



Excelシート Wordシート

<https://www.orionkikai.co.jp/contact/repair/>

お客様情報について

「点検・修理依頼シート」に記載いただきましたお客様の個人情報は細心の注意をもって管理いたします。
この情報は機器の修理、製品およびサービスの品質向上、修理に関係する問合せ、アンケート調査等に利用させていただきます。また、この目的のためにオリオン関連会社または業務委託先などに提供する場合が有りますのでご承知おきください。

保 証 書

本製品の保証内容は、下記のとおりです。保証修理をお受けになる場合は、機種名と製造番号をご確認のうえ、お買い上げの販売店へご連絡ください。

1. 保証期間

お買い上げ後 1 年間

2. 保証範囲

- (1) 上記保証期間中に当社側の責任による故障が発生した場合は、製品の故障部分の交換または修理を無償で実施いたします。ただし、ご使用される国・地域によっては修理対応ができない場合や時間を要する場合がありますので、日本国外で修理をお受けになる場合は、お買い上げの販売店に別途ご相談ください。
- (2) 取扱説明書の故障診断に沿った確認は、原則としてお客様にて実施をお願いいたします。ただし、ご要望により当社サービス網がこの業務を代行することができます。この場合、故障原因が当社側にある場合は無償といたします。
- (3) 保証期間内であっても、以下の場合は有償修理（保証対象外）とさせていただきます。
 - ①仕様書・取扱説明書等に記載されている以外の不適切な使用条件・環境・取扱い・使用方法・用途、およびお客様の不注意や過失等に起因する故障
 - ②当社製品以外（お客様の装置やソフトウェアの設計等）の原因による故障
 - ③当社指定サービス業者以外による修理や改造に起因する故障
 - ④当社製品がお客様の装置に組み込まれて使用された場合、お客様の機器が受けている法的規制による安全装置、または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造等を備えていれば回避できたと認められる故障
 - ⑤取扱説明書等に記載された定期点検や消耗部品の保守・交換が正常に実施されていれば回避できたと認められる故障
 - ⑥消耗部品（点検および定期交換部品）の交換
 - ⑦火災等の不可抗力による外部要因、および地震・雷・風水害等の天変地異による故障
 - ⑧当社出荷時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障
 - ⑨腐食性ガス・有機溶剤・化学薬品溶液等の雰囲気、およびこれらが付着する可能性のある環境下での使用による製品腐食に起因する故障
- (4) 個別契約等にて別途定めがある場合は、それを優先いたします。

3. 保証責務の除外

保証期間を問わず、当社の責に帰すことができない事由から生じた障害・事故補償、当社製品の故障に起因するお客様での機会損失・逸失利益・二次損害・当社製品以外への損傷、およびお客様による交換作業・現地機械設備の再調整・試運転業務に対する補償については、保証責務外とさせていただきます。

4. 用途限定

- (1) 本製品を重要な設備に適用する際は、本製品が故障しても重大な事故や損失に至らないように、バックアップやフェールセーフ機能を設備側に設けてください。
- (2) 本製品は、一般工業向けの汎用品として設計・製造されています。したがって、下記のような用途は保証適用外とさせていただきます。ただし、お客様の責任において製品仕様をご確認のうえ、必要な安全対策を講じていただく場合には適用可否について検討いたしますので、当社までご相談ください。
 - ①原子力・航空・宇宙・鉄道・船舶・車両・医療機器・交通機器等、人命や財産に多大な影響が予想される用途
 - ②電気・ガス・水道の供給システム等、高い信頼性や安全性が要求される用途





オリオン機械株式会社

<https://www.orionkikai.co.jp>

当社製品に関するお問合せ・資料請求は

お客様相談センター

✉ sijo@orionkikai.co.jp



☎ 0120-958-076

受付時間 平日 9時～17時

FAX 026-246-6753

CSセンター：札幌・仙台・太田・横浜・諏訪・名古屋・大阪・岡山・福岡

本社・工場 〒382-8502 長野県須坂市大字幸高246

更 埴 工 場 〒387-0007 長野県千曲市大字屋代1291

千 歳 工 場 〒066-0077 北海道千歳市上長都1051-16

北海道オリオン株式会社(札幌) 011-865-3666 オリオン機械株式会社(沼津) 055-929-0155
中央オリオン株式会社(盛岡) 019-641-4554 オリオン機械株式会社(浜松) 053-464-4737
中央オリオン株式会社(仙台) 022-284-0691 オリオン機械株式会社(刈谷) 0566-62-4377
中央オリオン株式会社(郡山) 024-963-1051 オリオン機械株式会社(名古屋) 0587-21-1717
オリオン機械株式会社(東京) 03-6811-7711 オリオン機械株式会社(金沢) 076-263-1881
オリオン機械株式会社(横浜) 045-934-7011 オリオン機械株式会社(大阪) 06-6305-1414
オリオン機械株式会社(千葉) 043-221-7788 オリオン機械株式会社(京都) 075-646-3939
オリオン機械株式会社(太田) 0276-46-7678 オリオン機械株式会社(神戸) 078-945-5508
オリオン機械株式会社(さいたま) 048-783-3975 オリオン機械株式会社(岡山) 086-246-3501
オリオン機械株式会社(宇都宮) 028-688-0020 オリオン機械株式会社(広島) 082-264-4535
オリオン機械株式会社(つくば) 029-850-3633 オリオン機械株式会社(高松) 087-835-1367
オリオン機械株式会社(新潟) 025-257-7006 西日本オリオン株式会社(福岡) 092-477-8480
オリオン機械株式会社(長野) 026-248-2428 西日本オリオン株式会社(熊本) 0968-38-7311
オリオン機械株式会社(諏訪) 0266-58-7535 西日本オリオン株式会社(鹿児島) 099-263-5275

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お買いあげ日		製 造 番 号	
販 売 店 名	店名		
	電話 () —		

☒ No. 7387 2024. 10. 02 TG N. T